

「レフェリーシンポジウム2024」に参加して

日程 2024年11月6日(水)～10日(日)

場所 広島県立総合体育館会議室、県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま

講師 Ramón Gallego (ESP)さん 元・国際ハンドボール連盟審判長(IHF・PRC)

福島 亮一さん(日本協会審判本部長)国際ハンドボール連盟(IHF・PRC)レクチャー

内容 前日の全日本学生ハンドボール選手権大会の試合を抜粋し、その映像をもとにGallego氏からハンドボールにおける最新のレフェリングの指導。

新ルールの動向に基づいた映像研修。

参加 11月 8日(金) 萩原佳明

11月10日(日) 清水健太

・Gallego氏からレフェリーの基本アドバイスとして(萩原)

①オーバーステップについて(女子 大阪体育大学vs福岡大学 後半3分、後半16分)

ボールをコントロールした足から数える。

0歩目をどれからと数えているか、3歩目・4歩目は違いがあるが、5歩目・6歩目は問題外。

個人によっては凄く良いステップ。ドリブル利用してからのステップもある。その見極めをレフェリーがする。

②2minシーンについて(女子 大阪体育大学vs福岡大学 前半25分、後半7分)

シュート後の2minは、会場の誰が見ても200%の事象を判定。

スモールコンタクト(軽微な接触)→7mスローの必要なし。

③BL、インフォメーションについて

方向指示、ジェスチャーを穏やかに、ゆっくりと示す。会場の観客に伝わるように。

④ブロッキング、フリースローの判定(オフェンスファール)について(女子 大阪体育大学vs福岡大学のゲームから)

映像をみながら、軽微なオフェンスファールを吹いている。小さな事象は、吹かない。

⑤レフェリーの位置について(女子 大阪体育大学vs福岡大学 後半9分)

ゴールレフェリーが、エンドラインから後に下がって見る傾向がある。エンドライン上で見る。

⑥6m内にOF・DFプレイヤーが侵入の際(男子 中央大学vs東海大学 前半6分)

・OFが2枚目のアウト割り→接触したOF、2枚目のDFが6m内に入る→ボールがウイングプレイヤーに当たり、シュートを打とうとするシーンにおいて

まずは、笛を鳴らし、止める→元の状態に戻す。その後、フリースローで再開。

※安全の確保

⑦ウイングゾーン(女子 リーグH 石川vs香川)

1枚目のDFが、ウイングプレイヤーのシュートの際に、手で体を触る行為については、2min、RED、Blueを意識。

※その行為がハンドボールではないという考え方

・Gallego氏からレフェリーの基本アドバイスとして(清水)

①フリースロー再開時の違反(男子 関西学院大学vs大阪体育大学 前半26分)

パッシブ予告中のFTの判定。モップも入れておりTO明けでの再開。再開の笛後、大体大DFが、スロー前に3m内に侵入。レフェリーは同プレイヤーにYCを提示。

どう対応するのが望ましいか。

まず、DFの位置は本当にいいか？横に位置どったDFは3mの距離を確実に確保できているか。6m-9mの関係側は意識しがちだが、それ以外の箇所も6-9間を参考にオーバー目にでもよいので確実に距離を確保する。その上で、「再開の笛後は3秒は保持できる」、「その間は3mの距離の確保は担保されなければならない」、「それを邪魔されるなら罰則」という考え方。

今回のケースでは、試合時間/試合展開/ゲーム局面、の観点からYCは適切ではない。

☆ここで思い切りD2を提示できるためにも、前段階での【準備】が重要。

※OFがDFの罰則を誘発するような投げる振りなどの動きは適切に排除する必要がある(罰則の使用も)

※またその場合の再開はターンオーバーである。なぜならば、FTはゲーム中断中ではあるが、スローの実施における違反であるから。

②パッシブの回数(男子 関西学院大学vs大阪体育大学 後半26分)

<このシーンは是非可能な方は映像を調べてみてください>

何回目にOFはシュートをうったか。かなり良い事象です。

カウントの仕方の再確認。

③☆special situation☆(女子 大阪体育大学vs東海大学 後半23分13秒)

<このシーンは是非可能な方は映像を調べてみてください>

大体大OF中、東海大5-1DFのトップが牽制でカットし攻守が入れ替わった瞬間の事象。

その瞬間にカットされた大体大OFがDFを背後からホールド。TO+D2。再開はFT。判定は正しいか。

考え方。【clear chanceか】これを【攻守が切り替わった瞬間】にまず意識をすること。

その基準として、事象の箇所で線を引いたときにそれよりゴール側にDFがいるか。

このシーンでは「いない」。7mの判定が必要。

いるならば仮に横の距離が離れていても戻って守れる可能性がある故、not clear chance。

最後に

広島県でのインカレ開催期間にあわせて5日間の開催でしたが、各都道府県から多くの方が参加をしてくれました。萩原、清水、それぞれ1日の参加となりましたが、非常に有意義なシンポジウムでした。

上述はシンポジウム内容の一部の抜粋ですが、文字だけよりも映像とともに見ていただくと非常にわかりやすいと思いますので、是非映像とともに見ていただけたら幸いです。

ここ数年、ハンドボールは、ルールはもとより、ゲーム展開などもめまぐるしく変化しています。日本が世界で戦えるようになるには、この流れから遅れをとるわけにはいかないと思います。それはレフェリーも同じです。私たちは、福岡県のペアとして、福岡県のハンドボールの発展を願っており、それが九州、日本の強化・発展に繋がっていくものと信じています。レフェリーという立場から、少しでも県内に還元できることがあれば積極的におこなっていきたくて考えています。今後ともよろしく願いいたします。